

京都教区時報

カトリック京都司教区
 広報委員会
 京都市中京区
 河原町通三条上る
 TEL 075-211-3025
 FAX 075-211-3041
 honbu@kyoto.catholic.jp

<https://www.kyoto-catholic.net/>

別のシンポジウムにきてくださったハンセン病
 国賠訴訟の弁護士は、ハンセン病の元患者たち
 思いました。

国家公務員でありながら、ハンセン病国家賠償請
 求訴訟（国賠訴訟）で、患者側の証人を務められ
 ました。ひとりの研究者としてのハンセン病に対
 する思いをお聞きしながら、自分の損得を考えな
 いで、社会的弱者にされている人と一緒に歩ん
 でおられる姿に、イエス様と共に働いておられると


「ハンセン病について学ぶために、元療養所の医
 師の方に講師に来ていただいた時、第一声に「ハ
 ンセン病の事を学ぼうとお越しいただきありがと
 うございます」とおっしゃいました。参加者に対
 して、教えるのではなく、共に学ぼうとして来て
 くださったのを感じました。またその医師は、

「正義と平和協議会の講演会や学習会などの活動
 を通して、イエス様はいろいろな人と共に歩ん
 でおられるという事を教えてください。」
 ハンセン病について学ぶために、元療養所の医
 師の方に講師に来ていただいた時、第一声に「ハ
 ンセン病の事を学ぼうとお越しいただきありがと
 うございます」とおっしゃいました。参加者に対
 して、教えるのではなく、共に学ぼうとして来て
 くださったのを感じました。またその医師は、

「今年、司教年頭書簡の中で、大塚司教様は「今
 回のシノドスの目的は、現代の教会がシノダリ
 ティ（ともに歩むこと）を教会の本質として再発
 見することにあります」と説かれて見ます。」

第9回 共に歩む

2024年 司教年頭書簡
 わたしのシノダリティを創ろうII
 シノドスがめざす〈道〉と〈宿〉の宣教
 を受けて



大塚司教年頭書簡は
 こちらから

祈りと活動の中で出会うことができました、共にい
 てくださるイエス様に感謝しながら、これからも
 歩んでいくことができますように。
 京都教区カトリック正義と平和協議会 岡田京子

正義と平和協議会の講演会や学習会を企画する
 とき、イエス様の歩みに重ねて、社会から弱かさ
 れている人々とともに、社会活動としてではな
 く、福音的な歩みをしていこうとの思いを大切に
 して活動が続けています。イエス様は私たちが身
 近に出会っている人々の中に共にいてくださり、
 私たちに歩むべき道を示してくださいっていると信
 じています。


「正義と平和協議会の講演会や学習会を企画する
 とき、イエス様の歩みに重ねて、社会から弱かさ
 れている人々とともに、社会活動としてではな
 く、福音的な歩みをしていこうとの思いを大切に
 して活動が続けています。イエス様は私たちが身
 近に出会っている人々の中に共にいてくださり、
 私たちに歩むべき道を示してくださいっていると信
 じています。」

「今年、司教年頭書簡の中で、大塚司教様は「今
 回のシノドスの目的は、現代の教会がシノダリ
 ティ（ともに歩むこと）を教会の本質として再発
 見することにあります」と説かれて見ます。」

「今年、司教年頭書簡の中で、大塚司教様は「今
 回のシノドスの目的は、現代の教会がシノダリ
 ティ（ともに歩むこと）を教会の本質として再発
 見することにあります」と説かれて見ます。」

とその家族が背負った苦し
 みの歴史を、ご自身の辛い
 生い立ちの体験を交えなが
 ら話してくださいました。
 不正義に対しては強い怒り
 を持ち、声を上げる事さえ
 できなかった元患者の怒り
 を、自分事としてともに歩
 んでこられた姿に、真のキリスト者としての生き
 方を見せていただきました。

また、ご自身の身体に危害を加えられて大やけ
 どをおってもなお、外国人技能実習生が人として
 扱われるように心血を注いで活動をしている人な
 ど、そのような人々と共にイエス様はおられるこ
 とに気づきました。




ブラジル・アパレシーダの 聖母マリアをご存じですか

アパレシーダの奇跡

さかのぼること、ブラジルがポルトガルから独立する前の1717年10月、3人の貧しい漁師は不漁が続いていたので、漁が成功するように神の母に助けを求め祈りを捧げ、パライバ川へ向かいました。何度も失敗した後、網を川に投げ込んだら、聖母像の胴体がかかりました。そのあと聖母像の頭部がかかりました。すると不思議なことに大漁となりました。村の人々はそれを見て天の恵みだと信じるようになりました。漁師はとても感動し、聖母マリアの像を家に持ち帰り、祭壇を作り、毎日祈りました。



その後の出来事

1745年、礼拝所が建設され、ブラジル初代皇帝ドン・ペドロ1世も礼拝所を訪れ、奇跡の聖母マリア像に敬意を表しました。その年、ブラジルはポルトガルから独立したのです。

1834年、巡礼者の数が増え続けると、より多くの巡礼者を受け入れるために教会が建設されました。

1888年、ルビーやダイヤモンドがあしらわれた輝く金の王冠と、深く美しい青い服が奉獻されました。この王冠と青い服を羽織った姿が、現在のアパレシーダとして定着しました。

1930年、ローマ教皇ピウス一世によってブラジルの保護者として布告されました。聖母マリア像にまつわる数々の奇跡がブラジル中に広まり、多くの巡礼者が訪れるようになりました。

アパレシーダへの巡礼者は増え続け、1955年にはさらに大きな大聖堂の建設が始まりました。大聖堂にはブラジルはもちろん、世界各地からの巡礼者が多く訪れ、奇跡と祝福の体験がたくさん報告されています。

アパレシーダに捧げる10月12日を国民の祝日として制定し、1984年に、アパレシーダの大聖堂は、ブラジルの聖地とされました。

アパレシーダの大聖堂

アパレシーダの大聖堂は、サンパウロ市から170km離れたアパレシーダ・ド・ノルテ (Aparecida do Norte) という町にあります。ここには、毎年1200万人の巡礼者が訪れます。大聖堂は3万2千人を収容し、バチカンの聖ペトロ大聖堂に次ぐ大きさだそうです。

大聖堂の中央のドームは70mの高さがあり、建物はシンプルですがしりとりしています。旧教会は町の中心部にあり、バロック建築

で大理石や木材を使っています。11年かけての修復工事が2015年2月に終わり、とても美しくなりました。大聖堂と旧教会をつなぐ392mの歩道橋があり、一番高いところで、地上から35mもあります。お願いをしに、また願





2019年 長浜教会での
アパレシーダの聖母ミサ

いを叶えてくれたお礼にと、その歩道橋を^{ひざまず}跪いて歩く信者もいます。
ラテンアメリカで最も多くの信者が集まる場所とされていて、これまでに、教皇ヨハネ・パウロ二世、教皇ベネディクト十六世と教皇フランシスコがこの大聖堂を訪れています。

**日本に移住したブラジル人による
アパレシーダ聖母崇拜**

アパレシーダの聖母はブラジルで崇拜されている聖母ですが、ブラジル人がさまざまな国に移住することによって、その信仰は国境や文化を超えています。
日本に住むブラジル人のために、2009年、さいたま司教区の茨城県常総市にアパレシーダの聖母を保護聖人とする常総教会が建てられました。毎年恒例の聖母の祭りには、日本各地から多く



2019年 長浜教会

のブラジル人の信者や巡礼者が集まり、この地域に住むさまざまな国籍の信者にとつての拠点ともなっています。
また、ブラジル人コミュニティがある多くの小教区で、毎年10月12日、またはその日に最も近い日曜日にアパレシーダの聖母の祝日が祝われています。
京都司教区ではパウロ大塚司教の司式で、三重県と滋賀県でこの祭りを祝っています。今年も、カトリック上野教会とカトリック彦根教会で開催される予定です。

三重北部ブック担当司祭
ブルーノ・ロハス



2020年 滋賀県甲賀市水口



アパレシーダの聖母ミサ

(ポルトガル語)

10月13日⑧11時 上野教会
10月27日⑩11時 彦根教会

第17回 戦争と平和写真展 「沖縄・フクシマ・東アジア」

京都教区カトリック正義と平和協議会による「戦争と平和写真展」を、今年も8月10日(土)、11日(日)にカトリック河原町教会地下ヴィリオンホールにて開催し、2日間で100名を超える来場者を得た。

今回の展示は、第一次大戦中の東アジア(中国・朝鮮半島)、沖縄、福島がテーマ。

東アジア・沖縄の写真

中国・朝鮮半島の写真には、戦前の日本メディアが報じた写真とニュースが展示された。眼をそむけたくなるような、日本兵の現地での残酷な光景をカメラにとらえ、報道することができたのも、「お国のために」という教育があったからだろうか。戦争状態になったときの、集団としての「正義」の暴走に怖さを



感じる。

沖縄の写真には、沖縄本島の辺野古の現在の様子の他、与那国・石垣・宮古・奄美など南西諸島の現状が新たに追加された。米軍基地の存在が問題になっている沖縄本島よりもずっと小さい島々である。近年「台湾有事」対策として、南西諸島の基地・要塞化が進んでいる。観光地や住宅地のすぐ隣に自衛隊の弾薬庫やミサイル発射基地が立ち並び異様な光景。この小さな島々の狭い土地で、弾薬庫が誤って爆発したらどうなる!? 島民は島に住み続けることができるのか? 戦争となったら、島民や観光客が避難できる場所は?? そんなことを考えさせられた。

福島の写真に米軍兵士の理由

福島の写真には、若き米軍兵士たちの姿が加わった。「なぜ米軍兵士?」と思われる方も多いと思う。

東日本大震災の直後、被災した人を助けるという緊急の使命をおび、「トモダチ作戦」として、いち早く福島へ救援物資を運び続けた兵士たちの多くが、救援活動中に被曝し、その後母国に帰って体調を崩し、日米両政府いずれからも何の支援も受けることなく、一人また一人と亡くなっているのだ。



映画「悲しみの星条旗」企画統括
エイミ・ツジモトさん(左)

今回の写真展開催中に上映された映画「悲しみの星条旗」と、日系4世の国際ジャーナリストであるエイミ・ツジモトさんの講演を通して、実情を詳しくうかがい知ることができた。

2011年3月、エイミさんの教員時代の教え子から届いた短いビデオ。ビデオには、福島の被災者へ救援物資を届け、兵士が原子力空母レーガンに戻った途端、鳴りやまなくなったガイガーカウンター之音。

「福島第一原発から発せられた放射性物質が風に乗って海に向かった直後、空



母レーガンはその真っ只中を航行し被曝。艦内にあった非常用食料やペットボトルの水は全て救援物資として被災地へ届けたため、船内で飲む水や食事、シャワーは放射能に汚染された海洋水を浄化したもののみ。安全な水の無い中、作戦が終わるまでの1カ月もの間、兵士たちはその環境下で生活を続けたのです。その後、国に帰還した兵士たちが次々に体調不良を訴えるも、軍の病院では原因不明のまま。軍を除隊し、民間病院で診てもらって初めて体調不良の原因が放射能汚染であると診断されました。死者も20

人を超えました」とエイミさんは話された。

未曾有の災害を目の当たりにし、福島の人々の支援のために何のためらいもなく身を挺して働いた米軍兵たち。テレビや新聞で彼らの働きに対する感謝と称賛が述べられていたことを思い出す。

フクシマの被曝者

この作戦に参加し、体調を崩した兵士たちは、「自分たちですら被曝して苦しんでいる。フクシマにも被曝者はもっていないはず。せめて自分たちが声を上げることによって、東日本大震災による全ての被曝者が医療援助を受ける道を開きたい」と2012年末に東京電力を相手に裁判を起こす。その後アメリカ政府は、作戦に参加した兵士たちの被曝の事実を認めるが、何の保証もない。その話を聞いた小泉元首相が、日本のために働いてくれた兵士たちがそのような状況に置かれているとは申し訳ないと、兵士たちの医療支援基金を設立し、エイミさんとともに支援を始めたという。しかし、東京電力からの謝罪や医療支援は未だない。エイミさんのお母様は、広島で原爆の被害にあった。お母様の苦しみを目の当たりにしてきたエイミさんは、被曝2世として「被曝者を世界中から出さない」



ことを切に願っておられる。

「世代・イデオロギー・主義主張を超えて、それぞれの状況下で、自分の出来ることに取り組んで欲しい」というエイミさんのことばが強く胸に響いた。

報告

京都教区カトリック正義と平和協議会
河原田 眞弓

カトリック中央協議会発行の書籍のご紹介



著者・日本カトリック司教協議会
シノドス特別チーム

「シノドスハンドブック」
シノドスの歩みを深めるために、日本カトリック司教協議会シノドス特別チームが編纂したシノドスハンドブック。「シノダリテイ」について、「シノドス的」な教会となるために、「霊における会話」について等のQ&Aや、「霊における会話」の実際のやり方など分かりやすく解説されています。
各小教区に1冊ずつお配りしましたが、カトリック中央協議会のサイト、または左記のQRコードよりダウンロードできます。



著者・日本カトリック中央協議会
タは左記のQRコードよりダウンロードできます。
著者・教皇フランシスコ
購入の場合定価 220円

「希望は欺かない」
二〇二五年通常聖年公布の大勅書
2024年12月24日にバチカンのサンピエトロ大聖堂の聖なる扉が開かれて開幕し、2026年1月6日の主の公現の祭日に同扉が閉じられ閉幕する通常聖年。この聖年を公布する大勅書。聖年を、神の恵みから希望を受け、神へと向かう歩みを強めていただく機会とするとともに、困難にある多くの人に希望をもたらす者となるよう招く。教皇庁内赦院の免償に関する教令を併録。



著者・日本カトリック司教団
購入の場合定価 880円

「見よ、それはきわめてよかった」
総合的なエコロジへの招き
教皇フランシスコの回勅『ラウダー・ト・シ——ともに暮らす家を大切に』に学び、神、他者、自然、そして自身との、調和ある関係を求めつつ生きていくよう呼びかけるとともに、「観る」「識別する」「行動する」という三段階を通じて、エコロジーについての理解を促し、実践へと招く。日本カトリック司教団から、すべての人へと向けられたメッセージ。カトリック中央協議会のサイト、または左記のQRコードよりダウンロードできます。



こんにちは シスター 共同宣教司牧担当者のシスターの紹介シリーズ

奈良ブロック担当
シスター ローマ・ミンジ (カルメル宣教修道女会)

私はカルメル宣教修道女会のシスター ローマ・ミンジです。北インド出身で日本に来て6年になります。現在は奈良県南部で働いています。

私はこの使命を与えてくださった神様に感謝しています。日本でキリストの福音を伝え続けることは素晴らしい経験です。私たちが特定の家族や特定の国に属しているかどうかは関係ありません。私たちがイエス様の信者であるなら、私たちはイエス様の家族となり、それが教会なのです。従って私がイエス様の家族の一員である時、私に託された使命を遂行するのは私の責任です。人々の中において教会の使命に貢献できることをうれしく思います。

人々がイエス様をもっと知りたいと切望しているのを見ると私もうれしくなり、人々のためにもっと多くの事をしようという意欲を与えてくれます。宣教師としての召命を与えてくださった神様に感謝し、使命を果たせるように神様の恵みを祈ります。



YES 2024のお知らせ

みなさんこんにちは！ YES 2024のお知らせです。

「YES」とは、京都教区の青年を中心に、分かち合いをしたり、ご飯を食べたり、歌を歌ったりして交流を深める宿泊のイベントです！ 例年、大塚司教様も参加され、青年達と過ごして下さっています♪

京都、滋賀、奈良、三重にお住まいの青年のみなさん、日々の喧騒を離れて、肩肘張らずにゆっくり過ごしませんか？ 詳細はまだ決まっていないことが多いですが、日程と場所は決まっていますので、ぜひ予定を空けておいてくださいね！ 詳細は決まり次第SNSやホームページでお知らせしますのでご覧ください(^^)



※昨年YES 2023の写真です

日程：11月23日㊥～24日㊦
場所：唐崎メリノールハウス
対象：18歳～35歳の青年（高校生不可）

つながりネットワーク 探めようフロンティア
京都カトリック青年センター

青年センターは、教区を超える青少年活動について
京都教区の窓口となるとともに、京都教区内の各教会、
青年の各諸活動をバックアップするための機関です。



← 青年センターのHPも見てね！



お知らせ

司 教

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



教 区

正義と平和協議会

現地学習会「大阪コリアタウン歴史資料館とカトリック生野教会を訪ねる」

日 時：10月14日(日) 集合8:00 帰着16:30
京都駅八条口バス乗り場(貸切バス乗車)

参加費：3,000円(当日徴収) 昼食各自持参
定 員：20名(先着順)

問合せ・申込：Tel 075-223-3340 Fax 075-223-3371
seiheikyo@kyoto.catholic.jp

聖書委員会

講座

「キリスト教的ヴィパッサナー瞑想」

一心に愛と平和を育み、信仰を深める瞑想法一

講 師：柳田敏洋神父(イエズス会)

日 時：10月8日(日) 10:30~14:30

場 所：河原町カトリック会館大ホール

参加費：1,000円 お弁当・飲み物をご持参ください

定 員：60名(先着順)

詳細は京都司教区のHPをご覧ください

問合せ・申込：seisho@kyoto.catholic.jp
Tel 075-223-3339

広報委員会

教区時報12月号の原稿締切日は10月21日(日)です。

下記までご連絡ください。

honbu@kyoto.catholic.jp



「聖書と典礼」点字版・デージー版のご案内

社会福祉法人ぶどうの木(理事長・菊池功
東京教区大司教)ログス点字図書館では、
視覚に障害のある方のために「聖書と典礼」
点字版・デージー版(デジタル録音図書)
を製作しています(有料)。皆さまの小教区
に必要な方がおられないでしょうか。小教
区でも個人でも購入できます。
(小教区宛に案内プリントを送付しました。)

問合せ：ログス点字図書館

Tel 03-5632-4428 Fax 03-5632-4454

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

10月13日(日) 14:00 聖歌練習

10月26日(土) 17:30 練習後、ミサ奉仕

場 所：河原町教会聖堂

問合せ：075-951-4283 則武 隆

コーロ・チェルステ(女声コーラス)

練 習：10月10日(日) 10:00 24日(日) 10:00

31日(日) 10:00

場 所：河原町教会2階楽廊

新会員募集中

問合せ：075-561-5971 駒井和子

聴覚障がい者の会・京都グループ

手話表現学習会(聖書と典礼)

日 時：10月15日(日) 13:00~15:00

場 所：河原町教会地下ヴィリオンホール

問合せ：Tel・Fax 075-723-1135 傳 裕子

心のともしび

ラジオ番組案内(全国34局で放送)

10月のテーマ「手助け」

KBS京都 ①~⑤ 朝5:55

⑥ 朝5:15

ラジオ関西 ①~⑤ 朝5:00

⑥ 朝6:05

毎日放送 ①~⑤ 朝5:45

⑥ 朝4:55



第35回「平和を作り出すキリストと

市民の集い」

日 時：10月27日(日) 16:00

テーマ：「命を救い、人や社会の成長や発展を

後押しする~職業としての国際協力~」

講 師：特定非営利活動法人AMDA社会開発機構

理事長 鈴木俊介氏

場 所：さふらん保育園ホール

京都市西京区大原野西境谷町2-7

主 催：西山地区「平和を作り出すキリスト

と市民の集い」実行委員会(桂教会、

長岡教会が実行委員として関わって

います)

皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」

が必要な方がおられないでしょうか。点訳

版「京都教区時報」をご希望の方がおられ

ましたら、カ障連大阪フレンドリー点字部・

笠松幸彦さんまでお申込みください。

無料でお送りします。

Tel・Fax/072-722-0271